

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人子育て家庭支援センターあいくる

事業名	おやこ de 先生の未来教室及びおやこ de 登校日
枠の種類	分野指定枠
分野	子どもの健全育成
①事業の目的・この事業で取り組んだ課題	<p>目的：中高生・大学生等の青少年が、乳幼児や妊婦さんと触れ合うことで、命の尊さを感じ、親への感謝や自分の生き方について考えるきっかけとする。青少年と乳幼児の、言葉の通じない関わりの中から、コミュニケーション方法を工夫することで、その能力の向上も目的とする。</p> <p>また「おやこ de 登校日」では、様々な事情から通常学級ではなく相談室に登校している生徒が、月に1回乳幼児親子と出会うことで、学校関係者ではない子どもやその母との関りから、心を少しずつ開き心が元気になることを期待する。</p> <p>課題：・育児に困難を抱える親が増えている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進み、地域の繋がりが希薄になっている現在、中学生・高校生・大学生などの青少年が乳幼児や妊婦さんに触れ合う機会は減っている。 ・幼児虐待や青少年が引き起こす様々な事件の影響等もあり、子どもを産み育てることに、希望を持たない若者も増加中である。 ・他者の立場に立って物事を考えることが苦手な若者も多く、コミュニケーション力に乏しい姿も問題となっている。 ・不登校や相談室登校の生徒が、安心して関われる環境が学校内に少ないことは、その生徒達の心が回復するうえで問題である。
②課題を解決するため、取り組んだ個々の事業	<p>(1) おやこ de 先生の未来教室（中学校・高校）</p> <p>趣旨：乳幼児親子と中高生、大学生の触れ合い、助産師による命の授業</p> <p>対象：市内の高等学校1校、中学校6校、大学1校</p> <p>(2) おやこ de 登校日</p> <p>趣旨：相談室登校の生徒へ乳幼児親子の訪問</p> <p>対象：入間市立藤沢中学校 月に1回</p>

③個々の事業の内容・実施結果

(1) おやこ de 先生の未来教室

市内の中学校、高校、大学へ訪問。多くの親子と学生のふれあいを実施することが出来た。また、2校の中学校では事前学習も担当し、より理解を深めたうえでの体験を行うことが出来た。

事業対象者：保護者 164 人 乳幼児 196 人 学生 556 人

時期	
6月	駿河台大学打ち合わせ
7月	駿河台大学告知・広報
8月	6日駿河台大学訪問 野田中学校打ち合わせ
9月	野田中学校告知・広報
10月	29日・30日野田中学校訪問 藤沢中学校打ち合わせ
11月	29日藤沢中学校 向陽高校打ち合わせ・告知・広報
12月	2日藤沢中学校 3日県立向陽高校訪問 11日西武中学校訪問 黒須・豊岡中学校告知・広報
1月	21日県立向陽高校訪問
2月	4日駿河台大学訪問

(2) おやこ de 登校日

毎月相談室を訪問し、相談室登校の生徒との信頼関係を築くことが出来た。先生や自身の親には話すことの出来ないことも話してくれるなど、心の変化も見ることが出来、実りの多き事業となった。

対象者：保護者 16 名 乳幼児 16 名 生徒 25 人

時期	
6月	17日藤沢中学校相談室訪問
7月	8日藤沢中学校相談室訪問
9月	19日藤沢中学校相談室訪問
10月	7日藤沢中学校相談室訪問
11月	26日藤沢中学校相談室訪問
12月	16日藤沢中学校相談室訪問
1月	20日藤沢中学校相談室訪問
2月	10日藤沢中学校相談室訪問

○広報実績について

年間を通じて、親子募集のポスター掲示。チラシ配布。

開催日の1か月前にはポスターの掲示。

毎月発行のあいくる通信内で活動の報告を兼ねた告知及び求人。

※ポスター掲示場所：市内子育て支援センター、出張広場、公民館、市役所、健康福祉センター等の公共施設

チラシ配布場所：市内子育て支援センター、出張広場

<p>④個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>【おやこ de 先生の未来教室】 本事業を通して、青少年が命について考えるきっかけとなった。今年度は青少年 556 名、親子 164 組が参加してくれた。 これまで助産師の『命の授業』を高校のみで行ってきたが、中学校でも助産師が同行することで、青少年が命の大切さをより感じることが出来た。また助産師の話の中で性教育にも触れるため、多方面に渡る学びとなった。</p> <p>【おやこ de 登校日】相談室登校の生徒が、親子の訪問を心待ちにし、他人に心を開くきっかけとなることを期待していたが、訪問した際にこどもと関わり、保護者と話をする様子を見ると、その目的が達成できたように感じる。 相談室の先生のお話によると、相談室にも来たり来なかったりする生徒が、登校日の日は必ず来る、という話も聞いた。</p>
<p>⑤費用の工夫</p>	<p>おやこ de 登校日事業において、中学校側と実施体制を協議し、学校側には訪問親子の昼食を負担していただくなど、協力をいただくことができた。</p>
<p>⑥地域社会への還元について</p>	<p>乳幼児を育てる親子にとって中学校とは遠い存在であり、中学生と交流する機会はない場合が多い。 中学生高校生も、核家族化が進み地域社会の繋がりが希薄になる中、乳幼児や妊婦さんに関わる機会が激減している。 そんな中で地域の親子と若者が出会い、関わりを持つことで関係性が広がり安全安心な地域の再構築に繋がる。</p>
<p>⑦今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<p>この事業を開催するにあたり、参加親子の確保は欠かせないものである。日頃より広場を運営し、年間約 2 万人の利用者さんがいる当法人だからこそ、学校へ訪問する親子さんを集めることが出来る。 また、事業の内容・進行方法がたいへん優れており、青少年・参加親子・教職員の全ての満足度の高い活動となっている。 その実績から市内中学校からの信頼も得ており、安心して事業の依頼をしてもらえる。</p>
<p>⑧事業の実施体制</p>	<p>○事業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①総括責任者：村野裕子 ②連絡責任者：吉澤由加理 ③現場責任者：村野裕子 ④経理担当者：吉澤由加理 ⑤広報担当者：鈴木真由美

<p>⑨ 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<p>今年度は、入間市立中学校、全 11 校中 6 校で実施することが出来た。来年度は未実施の 5 校にも開催を働き掛ける予定である。教育長も開催時の見学に来ており、校長会で開催を薦めてくれるとのお話も頂いている。</p> <p>また、費用面では子育て支援センターの「地域支援加算」の対象となると考えられるため、今後検討してもらう予定である。</p>
<p>⑩ 補足事項</p>	